

検体チューブをバーコードで管理 分注メソッドの自動生成が可能に

今行っている実験操作を分注装置での操作に切り替える際、複雑なプロトコルの登録作業にお困りではありませんか？

毎日測定する検体数や測定項目が変わる場合は尚のこと。

バイオテックが独自開発したソフトを用いれば、検体IDをバーコードで読み取るだけで、分注メソッドの自動生成が可能になります。



専用ラックに検体を並べる

バーコード付きチューブ、もしくは試験管を1列ラックに並べる。

01



バーコードの読み取り

バーコードリーダーにて、検体のバーコードを高速で読み取り。

02



専用ソフトにて、分注パターン作成

バイオテック独自開発ソフトにて、測定項目・濃度・検体本数を指定することで分注パターンの作成が可能。

03



分注装置にアドイン

上記で作成した分注パターンを分注装置にアドインすることで、面倒なプロトコルの作成を省略。

04



作業方法は簡単！

専用ラックにバーコード付き検体チューブを並べ、高速バーコードリーダーで読み取るだけ。オリジナルソフトで分注パターンの生成が可能です。



＜自社開発 オリジナルソフト＞

様々なプロトコルやアッセイに対応。バイオテックでは、お客様のご要望に合わせたオリジナルソフトの開発が可能です。マーケットにはない特殊なアッセイ（作業）の自動化や現行の作業工程の効率化をご要望に沿った形でご提案させていただきます。

対象装置一覧：



小型8ch可変ピッチサンプリング装置
EDR-8LZ



8ch可変ピッチサンプリング装置
EDR-VS8C



8ch/10ch可変ピッチサンプリング装置
EDR-VS8/VS10